

お父さんのなでなで

二宮 にのみや
楓 かえで

わたしのお父さんはバスの運転手です。わたしがねている間に朝早くから仕事に出かけて行きます。毎日たくさんのお客さんに乗せて運転しています。わたしはお父さんが毎日ぶ事に帰ってくると、とってもほっとします。なぜならば、わたしがようち園の時に仙台から帰ってくる時、大雪で道路が通行止めになってバスの中はずっといて、一日帰ってこれなかつたからです。その時わたしはまだ小さかつたけどお母さんと、とても心配した事を覚えています。

わたしはお父さんと小学一年生の時から三年生までノートに交かん日記を書いていました。お父さんが朝早くから夜おそくまで仕事だと起きている時に会えなくて楓と今日あつた事を話せないからと、字を上手に書けるようにというこで始めました。一年生の時書いた日記を見てみるとお父さんからは読みやすい大きいひらがなで楽しい話や、しつ問が書かれていて、わたしはしつ問の答えやイラストを書いていました。二年生になると習った漢字を入れて面白い話や学校での出来事へのしつ問が書いてあり、わたし

も学校であつた事を書いていました。ひさしぶりに日記を読むとお父さんとのやり取りが面白くわたしの宝物です。

四年生になった今、お父さんはどんなに前の日おそくまで仕事をして帰って来ても休みの日になるといつしよに自転車に乗って出かけた家族でおいしい物を食べにつれて行ってくれたりします。また、わたしが算数でわからない所があると、わかりやすく教えてくれるのでお父さんのおかげで算数が大好きになってきました。

最後にわたしが一番好きなお父さんは、必ず会社に行く前にねているわたしに頭をなでなでしていつてくれる所です。わたしはぐっすりねていますがたまに物音が目覚めてしまつてお父さんの

「なでなでだあ。」

とねたふりをします。お父さんになでられると、とってもしあわせな気持ちになります。これからもなでなでよろしくおねがいします。いつもお仕事がんばってくれてありがとうございます。